

中國出土資料學會
平成27年度第2回例会

日 時：平成27年12月12日（土）
平成27年度第2回例会
受付開始 12：30～
研究報告 13：00～17：00

場 所： 成城大学 7号館3階 731教室 （東京都世田谷区成城6-1-20）
キャンパスマップ：<http://www.seijo.ac.jp/access/campusmap.html>

会場へのアクセス： 小田急線成城学園前駅北口より徒歩3分

報告Ⅰ 小倉 聖（早稲田大学文学研究科博士後期課程）

発表題目：出土資料に見える刑徳七舎とその理論の相異について

発表概要：刑・徳は春秋・戦国時代においては政治・時令・災害と関わる重要な概念で、戦国時代から漢代にかけて、陰陽学説等を取り入れ、陰陽・数術の概念となった。陰陽・数術の概念となった刑徳に関しては、伝世文献では『淮南子』卷三天文訓に見え、そこでは大きく二種類に分けられている。一種は北斗七星の動きと連動した刑徳が、一月毎に七舎（室・堂・庭・門・巷・術・野）上を移動し、その動きから陰陽の消長を測る「刑徳七舎」である。もう一種は太陰の動きと連動した刑徳が、一年毎に五宮（東宮・西宮・南宮・北宮・中宮）上を移動し、その動きから進軍方向を占う「二十歳刑徳」である。本報告では両者の刑徳運行の内、とくに前者の刑徳七舎と天文訓に近似する理論が見える出土資料・伝世文献を検討・比較することで、刑徳七舎の形成過程を明らかにしたい。

報告Ⅱ 程 少軒（復旦大学出土文献与古文字研究中心 助理研究員）

発表題目：馬王堆帛書《刑徳》、《陰陽五行》諸篇曆法研究 一以《陰陽五行》乙篇爲中心

発表概要：數術文獻的曆法應包含「編纂使用曆法」、「貞卜適用曆法」以及「實際所用曆法」三個層次。通過對馬王堆帛書《陰陽五行》乙篇相關文字的復原，可知該篇「編纂使用曆法」是一種歲實 366 日的曆法。而該篇「實際所用曆法」則是歲實 $365\frac{1}{4}$ 日的顯項曆。由於曆法誤差，〈刑徳占〉中「徳」的遷徙日期每 8 年滯後 6 日，占書編者須對「徳」的推算方式作出調整，所以才將刑徳大游由「日至後之子午卯酉」改爲「日至後七日之子午卯酉」。利用此誤差，可以算出《陰陽五行》乙篇抄寫所據底本實際使用時間爲漢高祖十一年前後。還可推測，「刑徳大游遷徙日期」的創立約在秦二世元年至漢高祖六年，甚至可能是以秦二世元年冬至日壬子的特定時間點編製的。《陰陽五行》乙篇中許多神煞係據「編纂使用曆法」編排。「刑徳」、「上朔」諸神煞的運行週期，或是 366 日的約數 6 日、61 日，或是 6 日、6 日、60 日的最小公倍數 3660 日。諸神煞在此曆法支配下，形成嚴密數術系統。

報告Ⅲ 廣瀬 薫雄（復旦大学出土文献与古文字研究中心 副研究員）

発表題目：再談《太一将行図》中央主神的復原問題

発表概要：『太一将行図』は馬王堆三号漢墓から出土した帛書の一つである。帛全体に数柱の神と三頭の龍が描かれ、それぞれに題記が附されている。その内容は避兵（武器による負傷から免れること）と密接な関係があり、術数書として位置づけることができる。

この書の理解については斯界に多くの説があり、いまだ統一を見ていない。その中でも特に問題なのは、図の中央に位置する主神である。この神は横に附された題記から太一であるとされてきたが、2009年に李淞氏が、その題記の書かれた帛片の綴合に誤りがあり、それゆえ中央の主神は太一ではないとする論文を発表した。もしこの説が正しければ、従来の理解は根本から覆されることになる。

本報告では、問題となっている帛片の位置を確定し、それ以外にこれまで気づかれていなかった帛片の綴合の誤りを正す。これによって、議論が紛糾しているこの書の理解に一定の方向性を与えることができると考える。

☆参加費(資料代) 500円

☆非会員の来聴を歓迎します

☆例会終了の後、懇親会を行う予定です。ふるってご参加ください。

連絡先（例会委員長）

〒270-8555 千葉県松戸市新松戸3-2-1

流通経済大学新松戸キャンパス就職支援センター 富田 美智江

Tel : 047-340-0294

Fax : 047-340-0295

E-mail : tomita-michie@rku.ac.jp

成城学園前駅（北口）から学園正門まで徒歩3分

